

国の財政措置あっても火の車、

不足1600億円 どうやりくり

県新年度 予算編成 知事査定始まる

神田知事は幹部や財政担当者を前に「規模の大小に関係なく各事業を白紙から見直し、しっかりと点検する。知恵を出し、汗をかいてほしい」とあいさつ。県は新年度の財源不足に対し、地方交付税

神田知事は幹部や財政担当者を前に「規模の大小に関係なく各事業を白紙から見直し、しっかりと点検する。知恵を出し、汗をかいてほしい」とあいさつ。県は新年度の財源不足に対し、地方交付税

県の二〇〇九年度予算編成に向けた、神田真秋知事による査定作業が二十六日、県公館で始まった。世界同時不況の影響で四千九百億円に上る県の財源不足のうち、国の財政措置でも埋め切れない額は千六百億円。大型事業の扱いをめぐって県議会の与野党派が同日、正反対の要望を寄せるなど、知事は今週いっぱい続く査定作業を通じて難しい決断を迫られる。

(中村清)

の計千億円が国から配分されると試算。基金や県債と合わせ、計三千三百億円を確保できるといふ。

残る千六百億円の不足分は、県職員の給与

カットなどの歳出削減や県債の追加発行などで対応することになるが、県議会が県側に要望した内容は与野党で正反対の結果に。

二〇一〇年に開催予定の総合芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」をめくり、積極財政を求める自民党県議団は「検討は必要だが、やめるべきではない」(小林功団長)。

公明党県議団も「基本的に賛成」(渡会克明団長)との立場だ。

一方、事業全般の見直しを掲げる民主党県議団は、トリエンナー

しも「景気が回復するまで遅らせるべきだ」(榊原康正団長)と開催延期を求めた。